ライオンキングを鑑賞して

一年四組　深田　淳貴（越生中）

自分は、芸術鑑賞会で初めてミュージカルを見て、とても感激しました。なぜ感激したかというと、場面ごとに合った音楽と演劇がとても素晴らしかったからです。ステージ上には限りがありますが、奥の幕に映し出された映像や、ステージの下や横から出てくる装置により、限りが無いように見えました。それはまるでアフリカの広大な大地を見ているようでした。

自分は、劇中で印象に残った言葉があります。それは、「過去から逃げるか学ぶか」という言葉です。過去から逃げるとまた同じ失敗をしてしまいますが、学べば同じ失敗は繰り返さずにすむと思いました。自分も過去に失敗したことから学び、未来に活かしていけるようにしたいです。

ライオンキングの上演回数が二万回を超えていることを知り驚きました。また、自分より小さい子が、大勢の観客の前で堂々と演技している姿に感心しました。ライオンキング以外のミュージカルも見てみたいと思いました。

零れ話

毎年のことだが、今年も卒業の季節がやってきた。彼らは何を学び、どこへ向かっていくのだろうか。

卒業と言えば、島根県の益田にMランドと呼ばれユニークな教習所がある。合宿教習の短い期間であるにもかかわらず、卒業する時には皆が感涙する。なかには、新婚旅行で、自分が変わった原点に再び訪れる者もいるという。

スクール理念は、「感謝」と、それを伝える「挨拶」の徹底。独自の通貨「Mマネー」が流通する。トイレ掃除などを通じ、従業員だけでなく受講生にまでそれを浸透させる。

朝の掃除に参加していた二〇代の男性は、普段は自宅でトイレ掃除などしたことがないと話す。「最初はお金が目当てだったが、それがいつの間にか、楽しくなってしまって」と苦笑。

会長の小河氏は、「昔、日本人はみんなきちんと挨拶をしていた。だが、最近はできていない。この学校に来れば挨拶をする雰囲気があるのでみなするようになる。そうすると、その重要性がきちんと認識できるようになるんですよ」と語る。

数日前に石見へ向かった長男の帰宅が待ち遠しい。

誰しも成長した子どもの姿をみるのはうれしいものだ。

ウォークラリー報告

体育主任　清水　義弘

昨年は雨の為に中止になったウォークラリーでしたが、今年は晴天に恵まれ無事に開催することができました。二年連続の中止は避けたいとてるてる坊主を数多く、吊るしたい気持ちで一杯でした。一、二年生は初めての行事で、楽しみや不安そして様々な期待を寄せ、当日を迎えました。十四キロという距離に「距離が長い、長い！」と話していた生徒も無事に歩き終え、爽やかな顔で満足そうな表情をしていました。

今回も多くの保護者の方々にご協力頂き、監察員、桂木観音での給水、ゴール地点での温かいココア、様々な場所でご支援を頂きました。感謝申し上げます。今回も大きなけが人もなく、生徒全員が、十四キロの道のりを仲間とともに歩き終え、笑顔でココアを頂いている姿がとても眩しく、印象的でした。年に一度のウォークラリー、これからも武蔵越生高校の伝統として自然豊かな越生町を肌で感じ、地元を愛する気持ちを大切にして欲しいと思います。

高大連携プログラム

二年五組　根岸　陽里（鳩山中）

今回の東洋大学との高大連携では、実際に教室で水質についての授業を受けたり、外で実験をしたりしました。

どんな授業なのかわくわくしていましたが、大きなパネルを使って、今と昔の川の水質の違いを私たちにわかりやすく教えてくださいました。

実験は、いくつかのグループに分かれて行いました。使ったことのない実験器具が多くて最初は戸惑いましたが、グループのみんなで協力して実験を進められました。

こうして実際に大学へ行って授業を受けると、大学のことが少しわかり、「自分ももうすぐ受験生なんだ。」と改めて実感することができます。今できることにしっかり取り組み、大学で出会った方々のようにやりたいことを一生懸命できるようになりたいと思いました。今ある目標に向かって最高の結果を出せるように努力したいです。

オーストラリアに行ってきました！

修学旅行報告

二学年主任　柳川　和美

昨年十二月、オーストラリア北東部の都市ケアンズを拠点に六日間の修学旅行を実施しました。

目的は、二つの世界遺産であるグレートバリアリーフとレインフォレストなどの大自然を満喫すること。それに文化も習慣も違うオーストラリアでの異文化交流です。

慣れない飛行機旅の二日目は、スカイレールでキュランダへ、町の散策から動植物園とややきつめの行程をこなしました。

キュランダから南へバスで一時間半、標高七〇〇メートルのアサートン高原に到着。

ここで二泊三日のファームステイを楽しみました。さまざまな家族に迎えられ、農場体験、自然散策、名所めぐりやハイキングなど、多くの体験とコミュニケーションを取りました。南半球ならではの満天の星空を楽しんだ者もいました。

五日目、ケアンズからフェリーでサンゴ礁のグリーン島へ。シュノーケリング、ウミガメも泳ぐ海でのグラスボトムボート、砂浜散策、灼熱の太陽の下、さまざまな海洋体験を行いました。

全体的に満足度の高い旅でした。

平成27年度「税に関する高校生の作文」入選作品

川越税務署長賞
1年5組　櫻井　湧真（東松山北中）
“日々の暮らしを支えている税”

川越税務署長賞
1年8組　相中　友穂（川越富士見中）
“私たちの生活と税”

飯能県税事務所長賞
3年4組　吉木　晴香（浅羽野中）
“税について”

越生町長賞
1年2組　加藤　勇輝（霞ヶ関中）
“地方の税金”

越生町教育長賞
2年7組　伊藤　千奈（川島西中）
“助け合っている”

川越地区租税教育推進協議会長賞 佳作
3年1組　小椋　日菜子（飯能西中）
“税金について”

川越税務署管内税務協力団体協議会長賞
2年7組　妻木　真由（三芳中）
“税金を払う理由”

Musashi Ogose High School